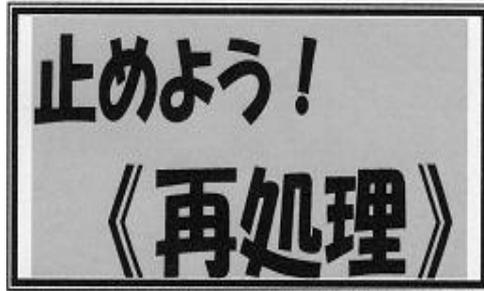


三陸の海を
放射能から守る岩手の会
ミニコミ通信 第12号
ホームページ
(岩手の環境 / RI廃棄物 / 再処理)
郵便振替02240 - 5 - 102650



2006(平成18)年
1月29日
編集事務局
S.Oshida
電話・ファックス
019-623-1636

青森県三村申吾知事宛要望書を手渡す

岩手県民の意志は

重く受けとめ知事に伝えると確約

「三陸の海を放射能から守る岩手の会」豊かな三陸の海を守る会」など十五市民団体の代表十二人は一月二五日、青森県庁を訪れ三村申吾知事宛てに、岩手県民の理解が得られぬつちは再処理工場のアクティブ試験を実施しないようにとする要望書を八七二〇筆の署名簿とともに提出しました。桜庭洋一資源エネルギー課長以下四人が応対し、「岩手県民の意志を重く受けとめ知事に伝える」と確約しました。要請には鹿内博、渡辺英彦両青森県議が同席、マスコミ各社から十三人が来庁し取材しました。



要請書を読み上げ 署名簿を提出する
岩手県要請団の市民団体代表

八千七百人分の署名簿を手渡す

冒頭、要請団を代表して「岩手の会」の永田文夫代表が、「三陸漁民の理解が得られるまでアクティブ試験実施のための安全協定を結ばないこと」とする、岩手県議会採択請願に沿った要望事項とその理由を読み上げました。同時に八七二〇筆の署名簿を手渡し岩手県民の切実な願いを伝えました。

国の お墨付き より県民の安全を

私たちの要請に対して桜庭課長は、趣旨は三村知事に充分に伝えるとした上で、「再処理工場の安全は国の責任で行われ、放出放射能は安全基準以下で認可された」と述べました。これに対して永田代表は「再処理工場の放出放射能の安全基準は存在しない。あるなら説明してほしい」と反論しましたが、回答はありませんでした。

また県担当者から「例えば排気ガスが毒だとしても、全てが人の体に入るわけではない。経口致死量四万七千人分の毒物といっても、〇〇ニミリシーベルトの基準を越えるわけではない」という発言がありました。これに対して要請団から「大量の放射能が海に流され岩手まで流れてくるのが問題であり、排気ガスの害とはとつて比較にならない

い半永久的な放射能による環境汚染が問題なのだ」という反論がなされました。

越前クラグのように 三陸沿岸に放射 能が流れてく

「三陸の海を守る会」の田村剛一会長は「今、三陸沿岸には越前クラグが流れ着き被害を与えている。六ヶ所から流される放射能が三陸沿岸に流れ着き滞留するのは明らかだ。山田町の基幹産業は養殖で出荷するまで力キは三年、アワビは五年かかる。海が汚染されれば生体内に放射能が蓄積濃縮され出荷できなくなる。安全といつながら陸奥湾に廃液を流せば良い」とい意見さえ、私の地元では語られている」と厳しく追及しました。これに対して桜庭課長は、「陸奥湾に流せといつのは岩手の地域工である」と色をなして反論しましたが、それは「廃液

が危険な物である「こ
とを自ら認めた形と

青森県庁



択請願の文書は受け取っていない

なりました。また、田
村会長は「原燃に対し
て公開討論会を要請
している。青森県知事
は 実現のために原燃
を指導してほしい」と
要請しました。

岩手県から議会採

青森県知事要請に 参加した市民団体

三陸の海を
放射能から守る岩手の会
豊かな三陸の海を守る会
(宮古・山田)

共生ユニオン(北上)
市民の会21・北上
平和を作ろう・ネット岩手
市民の会(盛岡)
緑のネットワーク 岩手
放射性廃棄物監視市民の会
放射能汚染からふるさとの自
然と子ども達の
いのちを守る会
豊かな食べ物を求める会
<盛岡>

NPO法人いわて
マリンフィールド
三陸の自然と環境を考える
市民ネットワーク(大船渡)
おみさかフォーラム
イーハトーブ隕石を守る会
岩手有機農業研究会

鹿内・渡辺両青森
県議から、「岩手県議
会採択の請願書を尊
重するべきだ」との発
言があり、永田代表か
らも「岩手県生活安
全部長から、重要な
案件なので担当課長
が青森県に出向き充
分説明し文案は届け
たと聞いてきた。岩手
県議会採択を尊重す
るよう要請する」との
発言がありました。

これに対し桜庭課
長は「岩手県から公文
書は届いていない」と回
答しました。

また県担当者から、
「再処理工場周辺の環
境評価はなされてお

り放射能レベルは安全
値である。工場から離
れれば、放射能の値は
さらに低いはずだ」と
の発言がありました。

「これに対し要請団は
「仏ラ・アーク再処理
工場の海底放出口の
数値を見ると自然海
水の一七〇〇万倍の
値の放射能が出てい
て、ノルウエーまで流
れている。三陸の海
でも同じことになる」と
反論しました。「仏ラ
・アークや英セラフィー
ルド再処理工場の実
態を調査してほしい
とも要請しましたが、
課長は「海外の調査は
国がやることで青森
県は関知しないと答
えました。この回答に
青森県民は納得する

のでしょうか。
ウラン試験のデー
タの公開を

また要請団は「この
一年をかけて行われ
た劣化ウランによる試
験運転のデータがほし
いむね要請しました
が、県は「ホームページ
などで公開する」と回
答、六ヶ所周辺の測定
値の資料として、公民
館に置いておくような
パンフレットが渡されま
した。鹿内県議から
「青森県はデータなど、
率先して岩手県民に
提供し説明を行うべ
きだ」との発言があり
ました。

安全無視のスケジュ
ール先行はしない

渡辺青森県議から
「再処理工場は青森に
あり、青森県が安全
協定を結ばない限りア
ークタイプ試験をするこ
とは出来ない。これは
原則である。今日はそ
の点を確認して終了し
たいとの発言があり、
永田代表からも「ス

ジュール先行のやり方
はしないでほしいとの
確認の発言がありま
した。これをもって約
四五分間の面談は終
了しました。
(まとめ 尚・メモ)

青森県知事要請行動 岩手県内 テレビが報道

今回の要請行動につ
いて、複数の岩手県内
マスコミが報道しまし
た。

岩手日報は二六日
朝刊で「安全協定 県
民の理解を得てから。
県内十五市民団体青
森県知事に要望」と報
じ、岩手放送は二五
日夜のテレビと二六日
朝のラジオで「青森県
は岩手県民の要望を
重く受けとめると回
答した」と報道しまし
た。青森県に比して
核燃関係の報道が少
ない岩手ですが、今回
の報道により再処理
工場から海を守る運
動は県民全体に明ら

かにされ、漁民と消費
者が連帯した運動と
して大きく前進しよう
としています。

青森県反核三団体 知事との対話集 会を申し入れ

六ヶ所再処理工場ア
ークタイプ試験中止を求めて
青森県反核三団体の代
表者が一月二四日、青
森県蝦名武副知事と面
談し、三村知事と県内
数十団体との対話集
会の実現を要請しまし
た。

対話集会の実現を求め
たのは「県核燃サイクル
施設立地反対連絡会
議」「代表委員諏訪益一、
「県反核実行委員会」委
員長の渡辺英彦、「核燃
料廃棄物搬入阻止実行
委員会」共同代表の鹿内
博の三県議。アークタイプ
試験阻止のため三団体
が党派を越えて結束し
申し入れました。三氏は
県内六十余の反核団体
に対し、二八日、青森
市内に集まり共同アピ
ールをまとめるよう要請
したといえます。(陸奥
新報「デリーー東北」の
HPなどから要約)